



# COP29

## ポリシーグループ

2024年10月

# はじめに

「行動を起こすべき時は今です。気候危機は子どもやユースに重い負担を課し、私たちを未来に対する不安と恐怖で支配してしまいます。今まで破壊されてきたよりよい明日を、今日も築くことができないのに、どうしてそれを夢見ることができでしょうか？だからCOP29は、人びとのニーズに応え、世代間正義・ジェンダー・ジャスティスに投資することで、気候危機を優先・保護・準備する必要があります」

Ineza Umuhoza Grace、影響に動かされたユース気候変動アドボケート兼ネゴシエーター、ルワンダ

気候危機の影響は、10億人超の子どもを極めて危険な状況に陥らせ<sup>1</sup>、開発機会を制限し、世界中で人道危機を悪化させている。「国連気候変動枠組み条約第29回締約国会議(COP29)」における気候交渉が近づく中、世界は気候変動が一層拡大し、再び記録更新の年を経験している<sup>2</sup>。子どもやユース、特に女の子とユース女性を、気候危機の影響が直撃している。彼らはまた、レジリエンスを構築するための効果的な対応策や適応戦略を開発するリーダーでもある。

気候危機は既に、世界中の子どもやユース、特に女の子とユース女性の生活や生計に重大な影響を与えており、経済的・教育機会を制限し、健康や栄養状態、性と生殖に関するヘルスケア・サービスへのアクセスに影響を与え、ジェンダーに基づく暴力(GBV)や早すぎる強制された結婚(CEFMU)のリスクを高めている。新たな緊急事態が発生し、既存の事態は深刻化しており、子どもやユース、特に女の子とユース女性が気候危機の矢面に立たされている。気候危機は、現代最大の世代間不公平である。その世代間不公平に直面する今日の子どもやユースの未来は、COP29での大胆な公約と行動にかかっている。

COP29は「気候資金COP」もとと呼ばれ、主に「新規合同数値目標(NCQG)」の設定に焦点を当てた交渉が行われる。この目標は、公平な分担と科学を基盤とした野心的なものでなければならず、気候危機の影響を最も受ける人びとのニーズを満たさなければならない。NCQGは、ユース、子ども、女の子、女性、先住民、疎外されたコミュニティ等、気候変動の影響が直撃する人びとの人権を優先しなければならず、また、ジェンダー平等と世代間の公平性を、指導原則として組み込まなければならない。1,000億ドルという目標は、影響を受けたコミュニティのニーズを満たすために必要な第一歩ではあるが、現在の科学と調査によれば、これは現在のニーズを満たすには不十分であり、根本的な変化を達成するには数兆ドルが必要であると推定されている。

気候危機が女性や女の子に不平等な影響を与えているという認識が高まってはいるが、ジェンダー・トランスフォーマティブな気候変動対策を展開するための行動と投資が、国家レベルや国連気候変動枠組条約(UNFCCC)プロセスにおいて欠如している。

COP29では、明確な目標、資金調達、役割、実行のための長期の時間枠を盛り込んだ、更新・改訂されたジェンダー行動計画(GAP)を策定し、ジェンダーに関するリマ作業計画(LWPG)を前進させることが締約国にとって必須である。

締約国は、全ての気候変動対策で、あらゆる多様な女性と女の子を包摂的に参加させ、GAPの実施を前進させること。包括的で十分な資金が確保されたGAPを、ブラジルで開催されるCOP30で採択すること。COPの全ての交渉において、ジェンダー平等、交差性、社会的包摂を統合することは、GAPと他の気候変動対策戦略との間に有意義なつながりを作り出すのに役立つ。

## 本要旨は、プラン・インターナショナルがCOP29に際し、締約国、交渉者、指導者への提言を以下の通り掲げている。

- 気候政策において、気候危機の女の子やユースへの不平等な影響への対応に焦点を当て、子どもの権利を擁護すること。
- NCQGの一環として、ジェンダー・世代間正義のための気候資金を増額すること、これにはジェンダーや年齢に配慮した介入の対象となる適応、軽減、損失・損害への明確な配分と、気候危機の影響を最も受けているコミュニティが利用できる資金を含むこと。
- UNFCCCの全プロセスにおいてジェンダーを優先し、LWPGとGAPの見直しでは女の子と女性に一層焦点を当てること。

COP29の成果に関し、子ども、女の子、ユース、ジェンダー平等を中核に据えることで、世代間正義を支持し、次世代に公正で強靱な未来を保証することができる。

# 提言

## ① 気候政策において、女の子への不平等な影響に焦点を当て、子どもの権利を擁護する

「豪雨や洪水で作物や家屋が破壊されたため、私のコミュニティでは、家族を養うために多くの親が娘を結婚させ、将来の夫から生活費をもらおうとしています...CEFMUの急増に私は恐怖を覚えます。なぜなら、親が家族を養う手段を持たなければ、彼らはあなたをCEFMUに差し出すからです...」

マリからの参加者、「The Gendered Impact of Climate Change on Adolescent Girls and Young Women in the Sahel」より

毎年、気候危機により災害の件数が驚異的に増加しており、**2015年には400件だった災害が2030年には560件に増加すると予測されている<sup>3</sup>**。この危機を引き起こした原因から最も遠くに位置付けられているにもかかわらず、子どもやユース、特に女の子が不平等な影響を受けており、彼らの影響力の行使に対する機会や貴重な視点は限られている。

女の子は、気候危機を、広がる不平等、飢餓と食料不安、教育や保健サービスへのアクセスの縮小、生計手段の浸食、GBVの増加として経験している。これは、社会・ジェンダー規範が女の子とユース女性への気候変動の影響を深刻化しやすく、彼女たちに対処し、レジリエンスを構築するためのリソースが乏しいからである。気候変動への適応、軽減、損失・損害への取り組みにジェンダーと年齢に配慮したアプローチを組み込むことは、既存の不平等を悪化させないために極めて重要である。子ども、特に女の子の脆弱性の高まりを認識し、彼女たちの権利と視点が気候政策の中心となることを保証することで、COP29は公平でレジリエントな未来を保証するのに貢献できる。

女の子、特に社会から取り残されたコミュニティの女の子は、気候変動の脅威から解放され、自身の権利を完全に平等に享受できなければならない。**強力なアドボケートでありリーダーとして、彼女たちは気候変動の解決を推進する潜在能力を秘めている。だが、彼女たちの気候政策プロセスへの参加は制限されることが多く、有意義な気候変動対策への貢献を妨げられている。**

2021年、プラン・インターナショナルの調査では、37カ国の調査参加者の思春期の若者とユースの91%が気候政策の決定への参加は難しいと感じており、パリ協定に関する交渉への参加方法を知っていたのは5%に過ぎなかった<sup>4</sup>。これらの困難があるが、女の子は、彼女たちの実体験と特有の洞察力を活かし、貴重な解決策に貢献するため、ユースや女の子主導の組織を通じて、気候問題に関する積極的なキャンペーンを継続している。

教育は、気候変動対策における女の子のリーダーシップを支える上で重要な役割を果たす。調査から、**女の子が学校に通う年数が1年増える毎に、その国の気象災害に対するレジリエンスが有意に強化される<sup>5</sup>**ことが判明した。しかし、毎年4,000万人超の子どもの教育が気候危機により妨げられており、その数は増え続けている<sup>6</sup>。教育制度に**包括的な学校の安全枠組み**のような気候教育を組み込んだ取り組みは、気候変動が引き起こすと考えられる打撃から教育制度を守り、女の子を含む影響を受ける人びとの有意義な参加と彼らへのアカウントビリティを通じて、レジリエンスのための先見性・吸収性・適応性・変革力を開発するのに役に立つ。教育は、気候変動対策を主導するために必要な知識とスキルをユースが身につけるのを助け、同時に彼らを気候変動の影響から守り、コミュニティが気候危機に適応するのを助ける。

ジェンダー平等と気候教育を推進する啓発キャンペーンは、女の子が自信をもちリーダーシップを発揮できる市民スペースを創出するために不可欠だ。だが、意思決定プロセスに女の子が有意義に参加できるよう、ジェンダーや年齢による障壁をなくす仕組みを構築しなければならない。ユース、特に女の子とユース女性は、アクセスの制限や、ユース主導の組織への財政支援、影響を受けたユースの意見・解決策・現実を聞く機会が著しく限られているため、意思決定の場へのアクセスに課題を抱えている。女の子主導の取り組みや気候変動対策における女の子のリーダーシップを支援することは、気候危機への包括的で公正なアプローチに向けた重要な一歩だ。**女の子は変化をもたらす重要な担い手であり、彼女たちの参加とリーダーシップは、変革をもたらす気候変動対策を推進する上で不可欠である。**

## プラン・インターナショナルのCOP29への提言

- 子ども、特に女の子を「孤立化」させないために、**子どもの権利とジェンダー平等を支持し**、UNFCCCの作業プロセス、下部組織の作業、および6月にボンで開催された**気候変動枠組条約第60回補助機関会合(SB60)と第1回子どもと気候に関する専門家会合から発展した**、各国が決定する貢献(NDC 3.0)や国別適応計画(NAP)等、国家レベルの政策において、子ども特有の脆弱性への配慮と対策を効果的に統合すること。
- 全ての締約国に対し、**気候危機が子ども、特に女の子に不平等な影響を与えていることを認識し、この問題が最新のNDC 3.0とNAPで扱われることを約束し**、特に気候変動に関する政府間パネルの次の周期で、子どもへの不平等な影響を組み込む等、調査において子どもに焦点を当てるよう促すこと。
- 全ての締約国は、**50カ国以上の署名を要件とする「子ども、若者、気候変動対策に関する宣言」に同意し、包括的で子どもやユースを中心に据えた気候政策と行動を加速させること**。この宣言は、各国の国民対話と行動の枠組みを提供する。
- 子どもと女の子の権利が尊重され、気候変動対策における変革の担い手としての役割が実現されるよう、**子ども・ユース協議会を設立し、地域、国、国際レベルで正式な仕組みを構築すること**。これらの協議会は、言語の壁を取り除き、包括的で参加しやすい場を創出するとともに、全てのレベルでの気候変動に関する意思決定に安全かつ有意義な形で参加することを通じて、政策決定への参加を阻む特定のジェンダーや年齢による障壁に挑むべきである。
- 新興のグリーンセクターでの将来の雇用機会に向けた**技能習得・技能向上・再技能習得等、子どもやユースに対する気候教育とグリーン技能習得への投資を拡大すること**。締約国は、「ジェンダー平等と障害者の包摂に特に配慮した、気候エンパワーメント行動(ACE)に関するグラスゴー作業計画」(ACE Glasgow Work Programme のC.2)を、各国がNDC 3.0とNAPを更新する文脈も含め採用し、普及することを求めるべきである。その際、子どもの主体性や気候変動に強い持続可能な開発に貢献する力とともに、気候変動に対する意識や備えを高めるような、カリキュラムや教員研修への気候変動教育の統合が含まなければならない。
- ジェンダー平等、子どもの生活と機会に対する気候変動の影響、災害の関連性について、**一般向け教育と啓発を強化し、女の子が気候政策と提唱活動の主導権を握れる環境を醸成する**。
- **包括的な学校安全枠組みを承認・実施し**、女の子、思春期の若者、ユース女性の特有のニーズと脆弱性に注目し、ジェンダー・トランスフォーメティブで、様々な危険に備えた教育制度を支援するプログラムを保証すること。

## ② NCQGの一環として、ジェンダー・世代間正義のための気候資金を増額する

「ジェンダーに配慮したプロジェクトへの気候資金の増加と、女の子と女性が気候変動対策に参加するための安全なスペースの創出は、彼女たちの特定のニーズに対応し、コミュニティのレジリエンスを高めるでしょう」

Damaris、ケニア、23歳、She Leads

「野心的な気候資金目標なしには、野心的な気候変動対策はなし得ません。これらの目標は、数十億ドルから数兆ドル規模に拡大されるべきです。ユース女性として、私は、ジェンダーやユースに配慮した資金調達を通じて、世界の女性と女の子が不平等に受ける気候変動の影響を反映した新たな気候資金目標を強く求めます」

Tegan、オーストラリア、23歳

国際的な気候資金はCOP29の中心的な議題であり、NCQGに関する主要な交渉が行われる。子どもやユースにとって、効果的な気候対策を可能にし、地球温暖化を1.5°C以内に抑えるという目標を達成し続けるためには、十分かつ野心的な気候資金が不可欠である。それなしでは、災害救援、人道支援、大規模な移住に関連する費用が大幅に増加し、脆弱なコミュニティを更に不安定化させることになる。

NCQGは、ジェンダー平等と世代間の公平性の原則を組み込みつつ、気候危機の影響を最も受ける人びとの人権を優先しなければならない。これは、国際的な気候資金の配分が失敗し、最も脆弱な集団や紛争の影響を受けたコミュニティ、特に女の子と女性が、限られたリソースで気候変動の影響に対処しなければならない状況を考えると、特に重要である。

以前の気候資金に関する公約が未達成である現状を是正しなければ、全ての締約国間の信頼と協力関係を構築することはできない。NCQGは、毎年1兆ドル超を動員し、国際的なニーズと科学的根拠に基づくニーズを満たし、気候危機への対応に求められる大規模な変革を達成しなければならない。この資金は、NDCとして、気温上昇を1.5°Cに抑えるという共通の目標を達成するのに十分な額でなければならない。新規かつ追加的、予測可能で透明性のあるものでなければならない。また、特に適応と損失・損害に対する先進国からの多額の助成金の形での拠出を含み、ジェンダー平等と世代間の公平性にも対応しなければならない。国際的な気候資金は、子どもやユースのニーズに応えていない。その原因は以下の点にある。

- 気候変動対策への政府開発援助(ODA)<sup>7</sup>のうち、ジェンダー平等を主要目的とし、統合した気候変動対策への配分はわずか2.4%に留まっている。

- 適応、回復、損失・損害への資金配分が不十分であり、UNDPは適応に関するギャップを毎年1,940~3,660億ドルと推定する。適応コストは現在利用可能な資金より18倍高い<sup>8</sup>。
- 女の子の脆弱性や気候変動へのレジリエンス構築でのリーダーシップを発揮しうるにもかかわらず、彼女たちのニーズへの配慮や対応が不十分であり、彼女たちのニーズや関与に取り組むプロジェクトで資金を得たのは4%未満である。これは、気候資金の重大なギャップを明示している<sup>9</sup>。
- 適応や損失・損害のための気候資金の欠如は、子ども、特に女の子が、強制移住や教育機会の剥奪、暴力にさらされるリスクが高まることを意味する。
- 脆弱性が深刻で、気候変動の影響への対応能力が低いにもかかわらず、気候変動と紛争の関連に対応するプログラムへの資金が拠出されていない。脆弱性と紛争の影響を受けている国々は、他の低所得国に約束された適応のための資金の3分の2も受けておらず、適応のための拠出金が増加している一方で、この格差は近年拡大している<sup>10</sup>。

女の子は気候変動の影響を最も受けるだけでなく、コミュニティの主導者でもあり、効果的な気候変動への適応とレジリエンスの構築に貢献している。しかし、彼女たちは、重要な活動を継続するために、専用の入手しやすい気候資金を含む、一層の支援を必要としている。NCQGで、野心的で質的・量的な、子どもを中心と据えたジェンダー・トランスフォーマティブな目標を設定することは、気候危機の最前線にいる子どもと女の子の緊急のニーズに対応しつつ、皆にとって公平でレジリエントな未来への前進を促すことができる。

## プラン・インターナショナル COP29 提言

- 先住民、社会から取り残されたコミュニティ、子ども、女性、特にユース女性と女の子など、**気候危機の影響を最も受けている人びとの権利を優先すること**。NCQGは、**ジェンダー平等と世代間の公平性**を中核的原則として組み込み、**ジェンダー平等指標**に関する報告を透明性高く一貫性をもって行うことで、気候資金へのジェンダーの観点の統合に対する説明責任とその進捗を保証しなければならない。
- **子ども、特に女の子の多様で深刻な気候変動に対する脆弱性を認識し**、気候変動の影響が彼らに不平等な影響を与えることに対応する措置を講じ、彼らを変化の担い手として力づけること。NCQGは、途上国の進化するニーズに即し、科学に導かれた、子ども中心でジェンダーに配慮した、変革的な気候資金の提供を目的とした施策を通じて、子どもの力づけとともに、彼らへの気候変動の不平等な影響に対応するという**定性的な目標**を含む**野心的な目標**を設定すべきである。全ての国際的な気候資金は、基本的に助成金として提供される新規かつ追加的な資金でなければならず、**特に適応、予見的行動、損失・損害**(レジリエンスの構築に不可欠な分野)に重点的に提供されるべきである。
- 教育・健康・水と衛生・食料安全保障と栄養・適応型社会保護に関する**グローバルな気候レジリエンスのためのUAE枠組み**のテーマ別目標への資金のニーズに応える、**適応に関するテーマ別個別目標を確立すること**。また、子どもの教育と保護も優先されるべきである。この助成金による資金調達目標は、科学と進化するニーズに則ったものとし、UNEPの分析を含む様々な調査を参考に、途上国における適応コストは年間2,150~3,870億ドルになると結論づけている<sup>11</sup>。
- **損失・損害の資金調達に関するテーマ別個別目標を設定し**、教育・保健・保護等の子どもとそのコミュニティにとって必須のサービスを回復・再建するための助成金としての資金調達を優先すること。資金は**需要ベース**とし、UNFCCCおよびパリ協定で定められた「**共通するが差異ある責任と各国の能力**」の原則に則った**公平な分担アプローチ**を採用すること。
- 子ども、特に最も脆弱な子どものレジリエンスを高めるための個別対応型解決策の実施のための**専用気候資金窓口を創設し**、最新の国家指標内で子ども関連の支出と指標を効果的に追跡すること。
- **緑の気候基金、適応基金、損失・損害基金等の気候金融機関**に対し、ジェンダーに配慮し、ジェンダー・トランスフォーマティブで、子どもに配慮した規定を具体的目的、指標、保護等の政策やプロジェクトに統合させるための**明確な指針を提供すること**。
- 特に脆弱性が高く紛争の影響を受けている国々が気候資金を直接入手できるよう、制度的能力を向上させ、**気候資金の直接的な入手を可能にし**、同時に、女の子と女性のニーズを必ず満たすこと。
- テーマ別専門家グループや政府、国際機関、NGOで連携するサンティアゴ・ネットワークの活動を含め、ワルシャワ国際メカニズム(WIM)の第3回検討会合にて、**経済的・非経済的損失・損害が子どもに与える不平等な影響に対して人びとの関心を高めさせること**。
- 気候変動に関する意思決定プロセスへの女の子とユース女性の効果的な参加を推進し、気候変動対策における彼女たちのリーダーシップを強化する女の子主導の気候変動への取り組みに専用のリソースを確保するため、全てのレベルでの政府の能力を強化するための**追加資金を割り当てること**。

### 3 UNFCCCの全てのプロセスにおいてジェンダーを優先し、特にLWPGとGAPの見直し時に女の子に注意を払う

「気候変動に関する交渉や意思決定のプロセスにおいて、ユース、特に女の子やユース女性がもっと参加し、彼女たちの意見や解決策が真剣に検討されてほしいです」

Deli, ガーナ、20歳、She Leads

ジェンダー・トランスフォーマティブな気候変動対策は、特に社会から取り残された女の子やユース女性にとって、気候危機とジェンダー不平等の根本原因の両方に挑む上で極めて重要だ。気候危機のジェンダー影響は、ジェンダー・年齢・人種・社会経済的地位・国籍・移民であること・民族性等、交差する不平等により女の子を不平等な立場に追いやり、暴力や搾取、教育の中断のリスクを高める。女性と女の子の脆弱性は、気象災害時に高まり、既存の不平等を悪化させる：

- 気象災害により避難を余儀なくされた人の80%超が女性と女の子である<sup>12</sup>。
- 2050年までに、気候危機により更に1億5,800万人の女性と女の子が貧困に陥り、2億3,200万人が食料不安に直面すると推定されている<sup>13</sup>。気候変動による食料不足の際には、女の子が飢えに直面する可能性が高く、食事の量が最も少なく、最後に食べることになり、飢えと栄養不良に陥る<sup>14</sup>。
- 気象災害は、特に脆弱な状況下の女の子にとって、児童労働・CEFMU・GBV<sup>15</sup>の危険性を著しく高める<sup>16</sup>。
- 女子教育は往々にして犠牲にされる。女の子は、家族のために食料や水を確保したり、きょうだいの世話をするために途中で学校を辞めさせられる。気候変動により、気候変動に脆弱な30カ国では、毎年少なくとも1,250万人の女の子が学校に通えなくなることが予測されている<sup>17</sup>。
- 女性と女の子は、気候変動の影響による健康上のリスクが不平等に高くなっている。

- 2021年、先進国からの適応のための資金提供総額280億ドルのうち、122億ドルがジェンダー平等を目的としていると報告された。だが、適応のための資金のうち112億ドル(40%)は、報告時にジェンダー平等を目的としているか審査されていないため、適応のための資金がどれほどジェンダー平等を目的としているかについては、極めて不明瞭なままである<sup>18</sup>。

ジェンダー不平等と気候変動に対する脆弱性の両方に根本から取り組むことで、ジェンダー・トランスフォーマティブな気候変動対策は長期的に大規模な変化をもたらす。意思決定への平等な参加を保証し、女の子と女性のリーダーシップとレジリエンスに投資することで、気候正義を推進する。この包括的なアプローチは、コミュニティにより持続可能で公平な成果をもたらす。

COP28におけるLWPGでのGAPの評価では、資金調達や実施、意思決定プロセスにおける女の子と女性の有意義な参加に重大なギャップがあることが明らかになった。COP29では、女の子特有の課題や貢献が気候変動政策において十分認識・支援されるよう、これらの問題に対処しなければならない。

気候危機のジェンダー影響に対処し、気候変動対策を主導する女の子を力づけることで、COP29は、より包括的で公正かつ効果的な地球規模の気候変動対策を促進することができる。UNFCCCの全てのプロセスにおいて、女の子に焦点を当ててジェンダーを優先することで、気候変動対策が現在と将来の世代にとって公平で持続可能なものとなるのを保証することができる。

## プラン・インターナショナル COP29 提言

- 女の子の声や経験を、NDC 3.0とNAPの策定、および気候資金の決定の中心に据えることで、**気候政策や行動に女の子の視点を組み込むこと**。女の子特有の洞察力や実体験を、気候変動への適応・軽減・レジリエンス戦略に反映させること。
- 女の子、思春期の女の子、ユース女性が被るジェンダーや年齢に関連した気候変動の影響に効果的に対処するため、また、フェミニスト女性の人権や女の子主導の組織からの視点や解決策を強化するため、気候政策・行動・資金調達を要請することを含め、**LWPGおよび5年間のGAPの見直しにおいて、より女の子に重点を置くこと**。この姿勢は、NDC、NAP、国家報告書の準備に反映されるべきである。
- 気候変動の影響を受けた地域での女の子への教育・保健・保護サービスへの投資を優先し、**ジェンダーに配慮した、ジェンダー・トランスフォーマティブな気候資金を増やすこと**。これは、気候危機を深刻化させるCEFMU、GBV、就学終了のリスクの抑制に有効なはずだ。
- 地域から世界まで、あらゆるレベルでの**気候変動に関する意思決定への女の子の完全で包摂的な参加を促すこと**。政策決定への女の子の有意義な関与を支援する正式な仕組みを創設・強化し、気候変動対策における彼女たちのリーダーシップが認識され、資金的支援が得られるようにすること。
- レジリエンスの構築と危機の深刻化防止を支援するため、早期警戒指標に基づき、必要に応じて予測に基づく資金調達を活用しながら、**ジェンダーと年齢に配慮した包摂的な予見的行動への努力を強化すること**。食料安全保障・教育・保健・社会保護への投資を通じ、影響を受けたコミュニティ、特に女の子とユース女性のニーズに応えるため、資金は適切かつ適時に、柔軟に提供されなければならない。

# 結論

「気候変動は、教育や故郷の島の喪失など、女の子としての私の将来に深刻な影響を与えています」  
少数民族・先住民の女の子、13歳、ソロモン諸島、Pacific Girls in a Changing Climate

COP29での行動の緊急性は明白である。私たちの地球の未来、そしてあらゆる多様性を持つ子どもやユース、特に女の子とユース女性の権利が危機に瀕している。気候変動の深刻化する影響への対応を怠れば、将来の世代に重大な影響をもたらす、世界のリーダーシップの決定的な失敗を示すことになる。

COP29では、意思決定者が気候資金のためのNCQGが、女の子と女性を含む気候変動の影響を受けている、社会から取り残されたコミュニティのニーズを優先し、そしてジェンダー・トランスフォーマティブな解決策に資金を投入し、科学的根拠に則ったものであるようにしなければならない。野心的な気候資金への貢献なしでは、女の子は暴力や搾取のリスクの増大、教育機会の損失等、気候変動関連の影響にさらされ続けることになるだろう。

プラン・インターナショナルは、COP29の指導者たちに対し、ジェンダー平等な政策を支援するための気候資金の拡大と、LWPGとGAPの見直しの一環として、気候変動に関する意思決定における女の子のリーダーシップの強化という断固とした行動を取るよう求める。女の子は気候資金戦略の中心に位置づけられ、彼女たちの声がNDC 3.0とNAPの策定に確実に反映されなければならない。

今日の子どもやユース、特に最も弱い立場に置かれた女の子の未来は、果敢な取り組みに委ねられている。今、COP29の意思決定者が野心的に先導し、次世代を守り・かづけ、皆にとってより公正で、レジリエントで、持続可能な未来を保証するために必要な資源を動員することが必要である。



# 別添

## プラン・インターナショナルの気候関連調査と報告書

Adolescent Girls in Crisis: Pacific Girls in a Changing Climate, forthcoming

Adolescent Girls in Crisis: The Gendered impact of Climate Change on Adolescents Girls in the Sahel, forthcoming

Australia's National Child and Youth Statement on Climate Change, 2024

Making Climate Finance Work For All: Five Tests For A Robust New Collective Quantified Goal (NCQG), 2024

A Fair Share of Climate Finance? The Collective Aspects of The New Collective Quantified Goal, 2024

日本語訳「CapacityStatement: より持続可能でジェンダー平等な世界を目指す真の気候変動教育」2024年

Protection, Gender and Inclusion in Anticipatory Action: Learning & Best Practices Report, 2024

Youth Leadership in Climate Policy Workbook, 2024

Integrating Child Protection, Education and GBV in Anticipatory Action, 2023

日本語訳「アジア太平洋地域の女の子たちの気候正義活動とリーダーシップ」2023年

日本語訳「気候変動と女子教育: 障壁、ジェンダー規範、回復力への道筋」2023年

日本語訳「目標未達: 子どもたちのための気候資金格差への対応」2023年

日本語訳「危機状況下にある思春期の女の子たち: 中米とメキシコにおける移住の経験」2023年

日本語訳「つらい生理」2023年

日本語訳「ユースとグリーンスキル ~持続可能な未来への準備」2023年

Supporting women to take the lead in renewable energy, 2023

日本語訳「気候正義 子どものための損失・損害資金」2023年

日本語訳「未来のために: 気候正義と教育に関するユースの声」2023年

日本語訳「最前線から」2022年

Safe Schools Global Programme - Our goals, 2022

日本語訳「気候変動教育とユース・リーダーシップの再考: 調査レポート」2021年

Adolescent Girls in the Climate Crisis: Voices from Zambia and Zimbabwe, 2021

Working with young people to adapt cities for climate resilience, 2021

## 脚注

- 1 Save the Children (2022). Generation Hope: 2.4 billion reasons to end the global climate and inequality crisis.
- 2 World Meteorological Organization (2024). WMO Global Annual to Decadal Climate Update (2024-2028).
- 3 Wim Thiery et al. (2021). Intergenerational inequities in exposure to climate extremes, See also Save the Children (2021), Born into the climate crisis.
- 4 Plan International (2021). Reimagining Climate Education and Youth Leadership.
- 5 Brookings Institute (2020). Three ways to link girls' education actors to climate action. See also: University of Notre Dame, ND-GAIN Country Index
- 6 UNICEF (2023). The climate-changed child: A Children's Climate Risk Index supplement.
- 7 OECD (2022) Development Finance for Gender Responsive Climate Action
- 8 UNEP (2023). Adaptation Gap Report 2023: Underfinanced. Underprepared – Inadequate investment and planning on climate adaptation leaves world exposed.
- 9 Children's Environmental Rights Initiative (2023). Falling short: Addressing the climate finance gap for children.
- 10 World Bank (2022). Closing the Gap: Trends in Adaptation Finance for Fragile and Conflict-affected Settings.
- 11 UNEP (2023). Adaptation Gap Report 2023: Underfinanced. Underprepared – Inadequate investment and planning on climate adaptation leaves world exposed.
- 12 World Economic Forum (2024). Women Health and Climate Change.
- 13 UN Women (2023). Feminist climate justice: A framework for action.
- 14 Aidsplan (2024). The disproportionate impact of climate change on women's health.
- 15 Office of the Special Representative of the Secretary-General on Violence Against Children (2022). The Climate Crisis and Violence Against Children.
- 16 Save the Children (2023). Global Girlhood Report 2023: Girls at the Centre of the Storm – Her planet, her future, her solutions.
- 17 Malala Fund (2021). A Greener Fairer Future: Why leaders need to invest in climate and girls' education.
- 18 Zurich Climate Resilience Alliance (2024). Making Climate Finance Work for All: Five Tests for A Robust New Collective Quantified Goal (NCQG)



## プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利と女の子の平等を推進する独立した開発・人道団体である。私たちは、すべての子どもの力と可能性を信じているが、それが貧困、暴力、排除、差別によってしばしば抑圧されていることを知っている。そして、その影響を最も受けているのは女の子なのだ。

子ども、ユース、支援者、パートナーとともに、私たちは公正な世界を目指し、女の子や脆弱な子どもが直面する課題の根本原因に取り組んでいる。私たちは、子どもが生まれてから大人になるまで、彼らの権利を支援し、子どもが危機や逆境に備え・対応できるようにする。私たちの広がり、経験、知識を活用し、地域、国、そして世界レベルで実践と政策の変革を推進する。

85年以上にわたり、私たちは80カ国超で全ての子どもたちの生活を変えるために、決意ある楽観主義者を結集してきた。

皆が平等になるまで、私たちは止まらない。

### お問い合わせ

 [facebook.com/planinternational](https://facebook.com/planinternational)

 [twitter.com/planglobal](https://twitter.com/planglobal)

 [instagram.com/planinternational](https://instagram.com/planinternational)

 [linkedin.com/company/plan-international](https://linkedin.com/company/plan-international)

 [youtube.com/user/planinternationaltv](https://youtube.com/user/planinternationaltv)

Plan International  
International Headquarters  
Dukes Court, Duke Street, Woking,  
Surrey GU21 5BH, United Kingdom  
Tel: +44 (0) 1483 755155  
Fax: +44 (0) 1483 756505  
E-mail: [info@plan-international.org](mailto:info@plan-international.org)